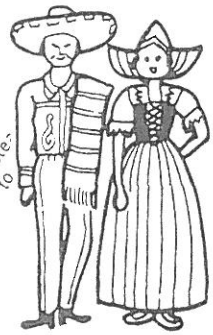
地球市民



江別ユネスコ協会会報　第４９号（2016･1･20）　事務局・江別市教育委員会生涯学習課内

インパールの文化と市民生活

インドの地域史を学ぶ学習会

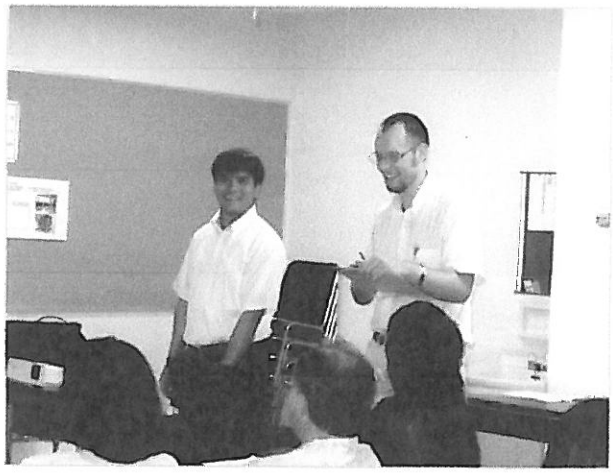
江別ユネスコ協会の第111回学習例会は7月30日18時30分から野幌公民館において、「インドの古都インパールの文化と市民生活」というテーマでジョセフ・アボンマイさんのお話を聞きました。アボンマイさんはインパールの出身で、大学・大学院で動物学を修めたのち、高校教員や社会福祉団体職員などを経験し、2009年からは主に日本国内で活動していましたが、2015年4月から江別市の英語指導助手として勤務しています。

インパールはインドの東端にある町で、かってのマニプル王国の首都。現在はマニプル州の州都で人口約27万の美しい町です。マニプル王国は1891年にイギリス軍に攻撃され、降伏しました。町の中心部にはカングラ宮殿ほか王国の遺跡が残っています。

第2次大戦ではビルマ（今のミャンマー）を追われた連合軍の反攻拠点となり、これを攻めてインドに侵入しようとした日本軍のインパール作戦が失敗したことで、有名な地名になりました。補給を無視した無謀な戦略で大敗し、以後、日本軍は東南アジアでの優位性を急速に失ったと言われています。戦後、インパール作戦に参加した3人のインド国民軍将校を、イギリスが反逆罪で処刑しようとしてインド民衆の大暴動を誘発し、1947年8月15日のインド独立の要因をつくったことは歴史の皮肉なところです。

マニプル州の住民はチベット、ビルマ系のメイト、ナガ族、クキ族など焼き畑農業を営む山岳民が多いそうです。ナガ族は北部のナガ丘陵に階段耕作（棚田）を営む定着的な民族。クキ族は南部のチン丘陵などに住む移動的な民族です。

1997年にはタドウ語を話すクキ族とパイテ族の間に民族紛争が起きました。また少数民族の一部にはインドからの分離独立や州境の変更を要求するグループがあり、しばしば治安当局と衝突して死者を出すことも少なくないと言います。今回のアボンマイさんのお話は、出席者にとって異文化理解のための貴重な機会となったようです。



▲インドの民族問題を語るアボンマイさん（左）

使用済み切手で途上国医療に協力

当協会は創立以来、使用済みの切手を回収してJOCS（海外医療協力会）へ送り、途上国の結核予防など緊急医療活動に協力しています。2015年度は約9000枚を集め、4月5日に発送しました。今後とも回収活動にご協力をお願いします。

屯田兵はどんな服装だったか

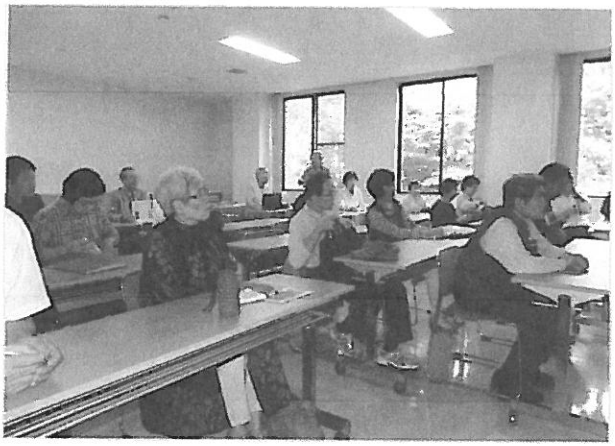
学習会で郷土史の裏面を知る

江別ユネスコ協会の第 112 回学習例会は、8 月 26 日 13 時 30 分から、野幌公民館で開催されました。テーマは「屯田兵のスタイルブック」で、講師は屯田兵研究誌「屯田」編集長の梶田博昭さんでした。梶田さんは北大卒業後、北海タイムス社に入社。報道部長、総務局長として活躍し、現在は地域メディア研究所代表を務める傍ら、屯田兵の子孫として屯田兵の調査研究を続けています。

創設当初の屯田兵の制服は、明治 8 年(1875) 5 月の太政官布達により鎮台兵（明治 21 年から師団兵）に準じることになり、正衣は紺ラシャ製ホック掛け、正袴（ズボン）は紺ラシャ製で黄色の則章つき。略服は小倉織で丈がベルトラインまでで短く、左袖の上部に北辰章（五稜星マーク）をつけて、これで鎮台兵と区別したと言います。

明治 10 年に西南戦争に動員された琴似・山鼻の両屯田兵の写真を見ると 3 種類の軍服が認められ、上衣はともに詰め襟、前ホック留め、丈の短いタイプです。明治 19 年に陸軍服制が大改正され、フランス式からプロシア（北ドイツ）式に替わり、上衣は丈が少し長くなり将校が濃紺ラシャ製、下副官以下は紺ラシャ製。ズボンは兵種によって色分けされ、歩兵・砲兵・工兵・輜重兵は紺、騎兵・軍楽隊は茜色になり、屯田兵だけ藍の霜降りとなって緋色の則章を付けたので「紺霜降りに赤ライン」という独特のスタイルが有名になりました。

講師の梶田さん（左）と田村会長



▲学習会で屯田兵の服装について学ぶ会員

明治 23 年に公布された陸軍省の「屯田兵給与令」によると、被服・装具について種別・給与数・供用期限等が定められ、ズボンは第 1 種（正服）・第 2 種（教練用）・夏用の 3 種があり、騎兵・砲兵・工兵には作業衣も給与されました。

日清戦争の際、屯田兵の霜降りズボンは不便だとされて、以後紺色に統一されて行き、日露戦争の際は全軍カーキ色の戦時服を着た中で、第 7 師団だけは屯田兵を含め、従来の紺ラシャの軍装で出征・帰還したことは有名なエピソードです。

この学習会で、今まで余り聞いたことのない郷土史の裏事情を知った出席者は、眼からウロコの思いで、梶田さんに多数の質問をしていました。

アジアの環境問題を考える講演会

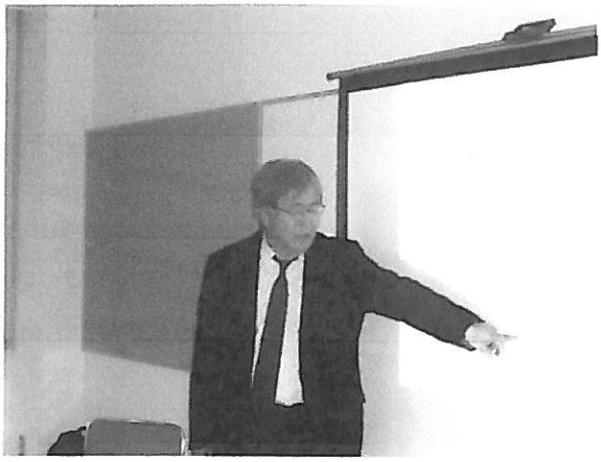
草の根のESD～その現状と課題

江別ユネスコ協会は 5 月 20 日 18 時 45 分より野幌公民館において、「アジアのこどもたちと一緒に～フィリピン・マレーシアなどにおける環境保全活動～」というテーマで講演会を開催しました。

講師は酪農学園大学教授の金子正美さんでした。金子さんは赤平市の出身で、帯広畜産大から北大・大学院へ進学、生態系管理学を修めたのち道庁の環境科学研究センターなどにご勤務。2001 年から酪農学園大に勤務され、現在、農食環境学群・環境共生学類の教授です。青年海外協力隊員の経験も

お持ちで（マレーシア）、GIS（地理情報システム）、ESDなど多様な研究分野で活躍されています。

また、金子さんはマレーシアの農村における「まちづくり」への支援をはじめ、内モンゴルの砂漠地帯での植林、フィリピンの台風被害者への支援など幅広い活動を行っています。この講演会では、金子さんのアジア各国における環境問題に関わる活動の数々を紹介して頂きながら、草の根の「持続可能な開発のための教育」について、現状を解説し今後を展望して頂きました。



▲アジアの環境問題を解説する金子さん

世界遺産の現状を知る学習会

当協会の第110回学習例会は、「世界遺産の現状とポルトガルの文化財」のテーマで、当協会の田村邦雄会長が講話をしました。（2015年3月7日13時30分、野幌公民館）

2014年6月にカタール国ドーハで開かれた第38回世界遺産委員会では、26件の遺産が登録され、日本の「富岡製糸場と絹産業遺産群」は無事合格しました。この審議でイコモス（国際記念物遺跡会議）が登録見送りを勧告したものが数件合格し、総登録数が1千件を超えるかどうか注目されていたところ、シーカ議長（カタール国女性閣僚）は簡単に1,007件に増やして、判定が甘くないかー苦情が出ました。この学習会ではいろいろな裏事情を含め、分かりやすく解説して頂きました。

室蘭での第49回北海道ユネスコ大会に参加して

江別ユネスコ協会会長　田村邦雄

第49回北海道ユネスコ大会が「ユネスコ創設70周年」を記念して、室蘭プリンスホテルで、10月17～18日に開催されました。全道から約90名、地元から約50名の関係者が参加しました。

冒頭、道ユ協の大津和子会長は「今年は人類史上未曽有の災禍をもたらした第2次世界大戦が終わって70年。日本でも軍人約320万人、民間人約80万人が命を奪われ、その被害は甚大でした。幸いこの70年間、日本国内では戦火を見ることはありませんでしたが、戦争体験者が年々減少し、戦争（の悲惨さ）と平和の尊さを語り継ぐことが難しくなりつつあります」と、戦後生まれの会長らしい挨拶をし、当面ESD（持続可能な発展のための教育）の推進を通じて全ての人々が安心安全に暮らせる世界を実現しよう―と力説しました。

また基調講演を行なった室蘭工大・地域開発センターの片石温美准教授は、室蘭地域の水産業と産学官連携のプロジェクトを紹介し、生産量で全国の3割を占める北海道水産業が、資源の減少、漁民の減少、魚の消費減少等により危機を迎えた半面、水産物輸出、地域資源活用による漁村の活性化等が期待されていて、室蘭工大も漁業組合のホタテ輸出試験を行ない、一般水産物の鮮度保持試験を行なって、地域貢献を果たしている実情を報告しました。従来の基調講演とひと味ちがった利益追求を含めたお話で、興味深く聞きました。

この大会は「ESDのさらなる推進」をテーマにした通り、フォーラム、グループセッションを通じてESD事業とユネスコスクールに関する事業報告・事例研究の一色に塗りつぶされた感じで、各高校・小中学校・幼稚園からの報告を聞くにつけ、室蘭地区がこの種事業の先進地であることが実感され、学ぶべき点の多い大会となりました。

江別ユ協の動きMEMO

（2015年2月～2016年1月）

◇**国際センター「冬の集い」に参画**　2015年2月8日13時開催（イオンT江別）主催は江別市国際交流推進協議会（当協会は加盟団体）当日は市内の外国人が多数参加、当協会から会長ほか参加。

◇**使用済み切手回収活動**　約9,000枚を回収してJOCS（海外医療協力会）へ4月5日発送。

◇**第2回高校生カンボジアツアーのＰＲに協力**　日ユ連盟主催の同ツアーの参加者募集について市内の各高校長に文書で協力依頼（4月7日付）

◇**ESD パスポート事業のＰＲに協力**　日ユ連盟の ESD パスポート事業の活用をお願いする文書を市内の全中学校長へ発送（4月23日付）

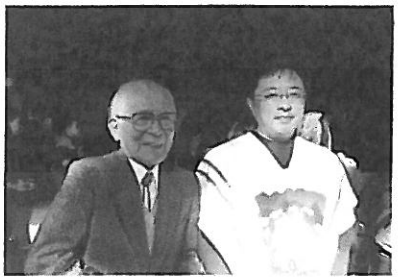
◇**道ユ協第1回常任理事会**　4月25日13時（かでる2･7）田村会長（道ユ協副会長）が出席。

◇**江ユ協役員会**　4月30日18時（野幌公民館）

◇**北海道ユネスコ連絡協議会定期総会**　5月19日14時（札幌すみれホテル）田村会長が出席。

◇**江別ユネスコ協会定期総会**　5月20日18時(野幌公民館）事業・予算・役員改選などを審議。

◇**「みどりの絵」コンクールのＰＲに協力**　三菱環境財団・日ユ連盟主催の絵画コンクールに応募を勧める文書を市内全小学校長へ6月6日発送。



世界市民の集いで菅沼名誉会長（左）と角田理事

世界市民の集いのお茶席でくつろぐ出席者

◇**私のまちのたからもの・スライドショーコンテストのＰＲに協力**　三菱環境財団と日ユ連盟が主催する同コンテストへの参加出品を勧める文書を市内全小学校長へ7月17日に発送。

◇**道ユ協第2回常任理事会**　7月25日13時（かでる2･7）田村会長が出席。

◇**「江別・世界市民の集い」に参画**　江別市国際交流推進協が主催。10月12日12時30分（野幌公民館）実行委員として菅沼名誉会長、角田理事が参画。当日は会長ほか会員多数が一般参加。

◇**北海道ユネスコ大会**　10月17～18日（室蘭プリンスホテル）田村会長、押谷副会長が出席。

◇**国連デー記念・時局講演会**　10月23日（札幌グランドホテル）国連協会道本部主催。講師：中田昌宏･外務省人権人道課長、二村伸・NHK解説委員室副委員長。田村会長が出席。

◇**第4回ＥＳＤユネスコスクール研修会のＰＲに協力**　ESD推進センター（道教大内）と道ユ協主催の研修会への出席を要請する文書を市内の小中学校長へ10月30日発送。

◇**札幌ユ協「世界寺子屋運動」講演会**　11月9日17時（京王プラザホテル）講師：岩田亮子「カンボジアの子供たちの今と未来」、田村会長が出席。

◇**第4回ＥＳＤユネスコスクール研修会**　12月7日（道教育大･駅前サテライト）田村会長が出席。

◇**第38回札幌インターナショナル・ナイト**　12月13日12時～20時（かでる2･7、京王プラザホテル）主催は北海道青少年科学文化財団（道ユ協は共催団体）討論会・懇談会に田村会長が出席。

◇**道ユ協・新年午餐会**　2016年1月23日11時（札幌グランドホテル）田村会長が出席。

◇**カレンダーの国際交換**　2016年版の絵入りカレンダーをインド、韓国、米国へ1月20日発送。

◇**北海道高校ユネスコ研究大会**　1月30～31日、（豊平区・北海商科大学）田村会長が出席予定。

事務局連絡先：青少年係内☎381-1069 担当石津